

■ 議題

今回の審議委員会は、3月5日（日）放送の『第2回飛騨高山文化芸術祭こだま〜れ2016 クロージングセレモニー』から「ゲスト対応」の模様、4月8日（土）14時から放送の20年前を振り返るコーナー「あのころの1997〜Back to the '97〜」、4月14日（金）放送の『春の高山祭サテライト放送』から「宮本のインタビュー」、4月19日（水）放送のリポートコーナー『ヒット・ザ・高山』から「古川祭の様子について」を聴いて審議に入った。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見ををお願いしたい。

原委員： 「こだま〜れ」については、1年前からヒッツFMで取り上げているということもあり、「こだま〜れ」というものがどのようなことをやっているのかがよく分かった。進行役の亀山ナビゲーターはベテランだし、ゲストである「こだま〜れ」の大萱会長（大萱委員長）も慣れているので安心してトークの掛け合いを聴くことができた。

「あのころの1997」は、土曜日の午後から、田中ナビゲーターと宮ノ下ナビゲーターの掛け合いでやっているが、「ボケとツッコミ」という感じで楽しく聴いている。「ヒッツFM開局20周年」で20年前を振り返るコーナーをやっているわけだが、聴いていると懐かしく思う。これからも何かのきっかけで、過去のことをたまには取り上げてもらえるとうれしい。

「高山祭」については、毎年、春と秋に祭りが同じ内容で行われるため仕方がないことだが、番組の内容が同じになってしまう。話すネタを変えていくことも難しいと思う。聴いている方が地元の方なのか、観光客なのか分からないが、話す内容を地元向けにしたり、観光客向けにしたり、交互に番組を進めたらどうかと思う。

また毎年、高山市から祭りのパンフレットが配布されるが、パンフレットに載っている屋台の説明や屋台彫刻の説明が面白いので、番組内でも取り上げればよいと思う。パンフレットでは毎年新しいことを取り上げているので、過去のパンフレットも参考にして欲しい。ターゲットが観光客の時は、毎年、繰り返しの放送が必要だし、ターゲットが地元の方

の時は、新しい内容を放送することが必要になってくると思う。難しいことだと思うが、番組構成について考えて欲しい。

「古川祭」については、高山の人にとって古川祭のことは知っているようで知らないことが多いと思うので、これを機会に番組の中でも深く追求して欲しいと思う。レポートの中でリポーターが祭り行事の時間や場所などを紹介した後、スタジオのナビゲーターがもう一度、時間や場所などの説明を復唱してもらうともっと分かりやすかった。

大萱委員長： やはりラジオの場合、フォローをすることが必要になるし、大事だと思う。私も古川祭のことは隣町なのにあまり知らないなので、私も含め高山の人に、古川祭の詳しい情報を伝えるようにして欲しい。

「だれをターゲットにするのか」ということが出てきたが、永遠の課題だと思う。どの時間帯にどのような人をターゲットにするのかを考えて、絞り込みながら番組作りをして欲しいと思う。

田中委員： 「こだま〜れ」については、大萱会長を始めイベントに携わっている方の声が聴けたのでよかった。

「あのころの1997」については「ヒッツFM開局20周年」ということで20年前を振り返る企画は面白いと思った。今後も続けて欲しいと思う。

「春の高山祭の宮本のインタビュー」についてだが、インタビューは事前に収録して祭りの当日のみ放送しただけなのか？

会社側： 事前にインタビューし、高山祭初日の4月14日に1回放送した。本来ならば、祭り当日はサテライトスタジオを設置して放送をしているのだから、関係者には生出演していただき、いろいろな話を伺うことができればよかった。しかし天候不良の場合は、（「宮本」を含め関係者は予定変更の協議や対応に追われ忙しく）サテライトスタジオまでお越しいただくことができないので、当日、天気はどうなるのかわからない為、事前に収録をし、サテライトスタジオ内で放送した。

田中委員： 収録であれば、できれば高山祭当日だけではなく祭りの日より少し前から放送をすれば、「宮本」という高山祭を取り仕切る方が、どのような思いで祭を行っているのかが、より市民に伝わるのではないかと思うし、祭りの見方も変わってくるのかなと思う。

「古川祭のレポート」は、高山祭の放送と比較すると、せっかく古川町（隣接の飛騨市）まで行っているのに掛け合いも無く、リポーターが一人でしゃべっているだけだったので、「祭りらしさ」が伝わらなかった。高山祭のように、古川祭も祭り関係者にインタビューするとか、観光客にインタビューするとかすれば、現場の音が聴けてよいのではないかと思う。

この先開催される「高山祭屋台の総曳き揃え」や「飛騨の大祭」などのイベントでもリポートする機会があると思うので、ぜひ、現場の方の声や観光客の声が聴けるようにして欲しいと思う。

大萱委員長： 今回の春の高山祭でインタビューを受けた「宮本」は、我々の町内の者だったのだが、祭り当日までにしなければいけない準備がいろいろある。例えば屋台最上部の飾りが電線に引っ掛からないように、電線の高さがそれを上回る7メートル以上あるのかをチェックするとか、屋台が通行する道路が波打っていないかをチェックするとか、当日は何時頃から信号機の向きを変えたりするのか（通常の向きのままだと、信号機が道路に張り出していて屋台の通行ができないため）、そのような事前準備の話も引き出して聞けると面白いと思う。

また「宮本」と言われる役の中でもトップの「宮本長」は立場が違うし、さらに「宮本長」の中でも神輿組の「宮本長」や、屋台組の「宮本長」、そして我々の町内のように屋台組だけれど屋台を持っていない組の「宮本長」もいるので、いろいろな立場の方の話が聞けると面白いと思う。

この先開催される「高山祭屋台の総曳き揃え」は祭り行事では無くイベントなので「宮本」はいないが、いろいろな角度から取り上げていただきたいと思う。

田口委員： 「春の高山祭」について、田中委員の意見にもあったが「宮本」のインタビューを事前に収録しているのなら、祭りより少し前から放送して欲しかった。そうすればヒッツFMを聴いた方に高山祭の知らない部分がますます伝わると思うし、祭りに行けない方がラジオを通じて祭りの雰囲気味わえるのではないかと思う。

それと、私はラジオというよりは、どちらかというとなSNS（ツイッターやフェイスブック）からのほうが情報が入りやすいのだが、例えば、放送の中で「ヒッツFMのツイッターにハッシュタグを付けて投稿してください」と呼びかけてリスナーにつぶやいてもらい、つぶやいてもらった内容をラジオで紹介するなど、SNSと連携する企画があると面白い。そうすることによって、特に若いリスナーが参加できるのではないかと思う。

「古川祭のリポート」は、現場からの生リポート放送ということで、現在の天候状況や祭り行事の進行状況などを説明していて、これから行こうとしている方には、必要な情報が伝えられていてよかった。しかし、音が悪く内容が聴き取りにくいと思った。今回の音質だと特に高齢者のリスナーには内容がよく分からないと思う。原因がマイクにあるのか分からないが、もう少し改善されるとよいと思った。

大萱委員長：「古川祭のレポート」は携帯電話からの放送だと思うが、何回も審議委員会の意見でも出ているので、なんとか頑張って音質向上を目指して欲しい。我々は、何回もこの意見が出ているので仕方がないことだと思っているが、新しい審議委員がこの件について意見するという事は、まだまだ音質の向上ができていないのだなと思った。お金の問題もあるかと思うが、できる範囲で改善して欲しい。

会社側：携帯電話からのレポートでの音質向上については、技術担当者と相談して少しでも改善できるようにしたいと思う。

大萱委員長：先ほどの「SNSのハッシュタグ」については、テレビがやっているところをよく見かける。ラジオでもハッシュタグをつけることはできるのか？

田中ナビ：各ラジオ局のツイッターの中には、ハッシュタグをつけてリスナーからのつぶやきやリクエスト、メッセージなどを送ってもらい放送している局もある。ナビゲーター自身がツイッターのトレンドを見たり、また、例えば「#ヒッツFM765」などハッシュタグを決めて、リスナーにそのハッシュタグを付けてつぶやいてもらえば、リアルタイムにリスナーのつぶやきを伝えることができるので、個人的には興味がある。「#ヒッツFM765」以外にも「#高山祭」を付けてつぶやいている方もいるかもしれないので、いろいろ検索していけばさらに情報がもらえるかもしれない。

大萱委員長：是非、早い段階で進めて欲しいと思う。

会社側：現在、私（山下）がヒッツFMのスタッフツイッターを担当している。普段は取材したこと、ゲスト出演の様子、最近だと高山祭の様子を写真に撮り、写真と一語に少しつぶやく程度しかしていないので、ハッシュタグのことはよくわからない。

大萱委員長：ナビゲーター自身ができるのか？

田中ナビ：ナビゲーターが個々に取材なり、番組作りをやっていることが多いので、どのナビゲーターからも統一して「ハッシュタグ〇〇でつぶやいて下さい」などの言い方で、ハッシュタグを呼びかけたいと個人的には思っている。

大萱委員長：（ハッシュタグを呼びかけることについて）悪いことは無いと思うが、常にツイッターを見ていなければいけないと思う。テレビだと視聴者も文字で追えるので、投稿されたつぶやきの中からアナウンサーがピックアップして紹介しているけれど、ラジオの場合だと全部読んであげないといけない。でも内容を選べばよい。「山下さんにやってくれ」と言っているわけではなく、若い人が是非やりたいと言っているのだから、任せたらどうか？よい意見をいただいたので、次の審議委員会までには「検討中」ではなくて、やった結果を報告して欲しい。

田中ナビ：リスナーがどのように反応してくれるかわからないが、とりあえず呼びかけだけでも始めてみればよいと思う。

大萱委員長：他の審議委員も皆さん「いいと思う」と頷いているから、是非、やって欲しいと思う。

下裏委員：「こだま〜れ」については、大萱会長はラジオ出演にたいへん慣れているのでとても聴きやすいし、亀山ナビゲーターもゲスト対応に慣れているので、2人の掛け合いはとてもよかった。男女のやりとりは声質が違い、聴く側としては聴きやすい感じがする。

「あのころの1997」については、懐かしく聴けてとてもよかった。ナビゲーターが20年前の選抜高校野球のことについてなど話の中に盛り込んでいて、事前にいろいろ調べてこのコーナーをやっているのだなと感じた。さらに続けて欲しいと思う。

「春の高山祭のサテライト放送」だが、バックに笛の音が入っていて、祭りの雰囲気伝わってよかった。しかし「宮本のインタビュー」では、インタビューの時間が少ないと思った。この日、サテライトスタジオでは他のゲストも出演していて、我々が手配したゲストもサテライトスタジオまでお越しいただき放送をしたが、せっかくお越しいただいた割には出演時間が短く、人によってなのか、時間枠がそれだけ設けられないのか分からないが、臨機応変にもう少し長く話が聞けるとよいと思った。

「古川祭」については、私も古川祭のことはよく分からないので、古川祭について、詳しく放送していただくとうれしいと思った。先ほどの意見にもあったが、レポートの音声がかもって聞えたことと、最初の掛け合いの声がかぶっていたので、その辺りを調整してもらえるとよいと思った。また、リポーターとスタジオのナビゲーターの掛け合いが少なく、ずっと1人でレポートしているのが気になった。リポーターが一人で話すだけでは聴く側が飽きてくると思うので、掛け合いがあると分かりやすいのかなと思った。

大萱委員長： サテライトスタジオのゲスト出演の件で、時間的な問題はどうしてもあると思うが、消化不良の部分もあるので、少しでも長く話を聞きたい気持ちが出てくると思う。しかし、ひとつのことについて深く追求すると話が長くなり、間延びした内容になることもあるので、見極めが大事になると思う。

ところで「宮本のインタビュー」の時は、ナビゲーター自身のレコーダーを持っていったのか？

会社側： 「宮本のインタビュー」をしたナビゲーターは、個人のICレコーダーを持っているので、今回はそのレコーダーでインタビューを収録した。通常1人で収録に行く場合は、インタビュアーがレコーダーに内蔵しているマイクを向けて声を録音している。ナビゲーターによっては、ハンドマイクを接続して録音することもある。今回は私（山下）が録音したのだが、2人に並んで座ってもらい、私が中心になりレコーダーを持って収録した。そのためマイクから少し離れている分、音質が悪いと感じたのかもしれない。

大萱委員長： 少し遠くから録音している感じがしたし、放送ではBGMが入るので声が聞きづらいと思った。亀山ナビゲーターや宮ノ下ナビゲーターはICレコーダーを自分で持って、レコーダーを自分にも相手にも近づけながら録音していると思う。その方が、声がよく聞こえると思う。マイクを中心に置くのもよいのだが、録音方法についても検討して欲しい。

田中ナビ： 先ほどの下裏委員の「古川祭のレポート」の件で「掛け合いがあるとよい」という意見があったが、リポーターとスタジオにいるナビゲーターとの掛け合いでもよいのか？

下裏委員： 大丈夫だ。

高木委員： 「こだまーれ」について他の委員からの意見にもあったが、現場の雰囲気がよく伝わっているし、掛け合いが非常によかった。

「あのころの1997」については、当時を振り返る中で「新聞記事によると」と言っていて、ニュースソースがどこなのかがしっかりと分かり、正確な情報を伝える意味ではよかったと思う。こちらも意見であったが、節目、節目で過去の話題・音楽を取り上げてもらおうと懐かしさを感じてよいと思う。

「春の高山祭サテライト放送」についてだが、私は今年高山（警察署）に着任したばかりで、高山祭の警備をするのが初めてということもあり、高山祭を楽しむことができなかつたが、高山祭の「宮本」がどのような仕事

をするのかを、インタビューの前に説明していたので「そういう役職なのだ」ということが分かったし、非常に聴きやすかった。

逆に「古川祭のレポート」は、他の委員の意見にも出たが、リポーターが一方的にずっと話をしていたので、スタジオとの絡みがあるとよいと思った。

大萱委員長： この先「高山祭屋台の総曳き揃え」や「飛騨の大祭」が行われ、また6月には「ウルトラマラソン」もあり、高山警察署の方にはご協力いただくことになる。ヒッツFMとの緊密な連携をお願いしたい。

蒲生委員： 私も今年高山に着任したばかりで、初めてヒッツFMを聴いた。

「こだま〜れ」については、非常に聴きやすくよかったと思うが、私は地元の間人ではないので、内容によっては地元の方にしか分からない情報があったので、地元以外の方も分かるような解説があるとよいと思った。

「あのころの1997」については、最初は「20年前を振り返る」ということで「どうなのかな」と思ったが、聴いているうちに「20年前はこうだったな」と興味を持って聴くことができた。

「春の高山祭」と「古川祭」については、私は両方の祭りに行ってきたのだが、私はSNS（ツイッターやフェイスブック）をやっておらず、そのため現地でもSNSからではなく、スマートフォンでインターネットから祭りの情報を調べていた。しかし、リアルタイムな情報が出てこずパンフレットを参考に祭りを楽しんだ。

今回の委員会で聴取した内容から、ヒッツFMが祭りについて放送していることを初めて知り、祭り行事の時間変更があった場合など、その情報をリアルタイムに知ることができるのでよいと思った。残念なことは、高山祭も古川祭も雨が降っていた時間帯もあって昼間でも寒く感じ、また夜の祭りについても「暖かい恰好でお出かけ下さい」と放送で呼び掛けてはいたが、名古屋出身の私をはじめ他地域の間人にとっては相当寒く感じたので「すごく寒い」ということを情報発信してもらうとよかった。

大萱委員長： 確かに、ナビゲーターは地元出身者が多いので、自分たちの感覚だけで情報を伝えているが、観光客も聴いていると思うし、その辺り気を付けながら放送して欲しいと思う。

他に意見は無いか？

原委員： 審議委員の皆さんの意見を聞いて思ったのだが、高山祭などについて、ヒッツFMで流す内容だが、天候不良などで祭り行事の時間が変更される場合があるけれど、その情報を何時にお知らせするというのを、事前に観光客が分かるようにしておく親切だと思う。例えば、パンフレットではからくり奉納が午後1時からとなっているが、午後12時30分頃からヒッツFMを聴けば、時間に変更があるのか、予定通り行われるのかが分かるよう案内すればよいと思う。

また、観光客がヒッツFMをどこで聴くのかということだが、市内の土産物店や商店街に協力してもらい、祭り当日のその時間帯は観光客の為にヒッツFMを流して欲しいと事前をお願いしたらどうか。お店の中でヒッツFMが聴けたり、通りすがりでヒッツFMが聴ければ、行事に何か変更があっても正確な情報が早く伝わるのではないかと思うので、今後考えていかなければならないと思う。難しいことかと思うが、ヒッツFMをどこでも聴ける環境を作らなければいけないと思う。

私の店でも観光客が祭りのことで尋ねてくることがあるが、分からないことが多く、「たぶん祭り行事は予定通り行われると思うけど、詳しいことは祭り本部まで行って聞いて欲しい」と応えている。そのような経験があるので、ヒッツFMの情報が観光客にも伝わるようにするには、どうしたらよいのかを考えていかなければならないと思う。

大萱委員長： ヒッツFMは、高山祭の情報をどこから得るのか？

会社側： サテライトスタジオの近くに設置される市役所の「祭り案内本部」からだ。今回は祭り2日目が天候不良の為、「宮本」からの指示がなかなか無く、祭り行事が予定通り行われるのか、行われぬのか、案内本部でも応えようがなく困っていて、ヒッツFMにもなかなか情報が入ってこなかった為、対応が遅れた。

原委員： 祭りは元々地元の為の行事だが、観光客にしてみると、高山祭を目当てに高山に来ているので、ある程度は観光客にも情報を伝えることを考えていかないと、高山に観光客が来なくなるのではないかと思う。だんだんと観光客が少なる可能性もでてくるので、今後しっかりと情報を伝えることを事前に決めておかないといけないのではないか。先ほど「祭り行事が行われるのか、行われぬのか分からず、対応が遅れた」と言っていたが、その場合はその情報をそのまま放送で伝えて、「30分後、1時間後にお知らせするので、もう1回聴いて下さい。」とリスナーに伝えることを考えていかなければいけないと思う。そうしないと、リスナーには伝わりにくいのでは…。先ほどの意見にもあったが、SNSに情報を投稿する方法でもよいと思う。

大萱委員長：天候が良ければ、祭り行事は予定通り行われるのでよいのだが、先ほどの意見で「天候不良で祭り行事が行われるのか、行われぬのかまだ決定されていない場合」にも情報を言うことが大事だと思う。伝える時間を決めておいて、また30分後にお知らせをして、さらに30分後でも決まっていなかったら「まだ決定していない」という情報を伝えていくなど、常にその時に分かる範囲での情報を伝えて欲しいと思う。今度、2日間にわたり行われる「高山祭屋台の総曳き揃え」の時も、週間予報では天候が怪しくなっているから、今の意見を参考にしてもらい、他に放送しなければいけないこともあるが、30分おきなど定期的に情報をお知らせすることを考えて欲しいと思う。

ところで、田中ナビゲーターのコーナー「あのころの1997～Back to the 97～」は、毎週土曜日に宮ノ下ナビゲーターとやっている番組の中のコーナーだと認識しているが…。

田中ナビ：毎週土曜日の午後2時からこのコーナーをやっている。1年ぐらいやりたいたいと考えている。

大萱委員長：5年後に開局25周年を迎えた時に、25年前を振り返ったら、また1997年の出来事を振り返ることになると思う。今回は開局20周年にからめた企画だけれど、例えば次回は「ヒッツFMが開局5周年を迎えた時は、こんなことがあった」ということを振り返るコーナーにするなどしたらよいかと思う。

原委員：1年ごとに振り返るコーナーがあってもよいと思う。例えば19年前を振り返ってもよいし、また、それを毎日やるのではなくて、1週間に1回程度にして、1年ごとに振り返れば、いろいろな年代の方が懐かしく聴けると思う。（宮ノ下ナビと田中ナビの）2人でしゃべっているから、気が付いたことが言えるから間が空かないし、男女の掛け合いなので声質が違ったり聴きやすくて面白いと思う。

大萱委員長：総務省の調査によると、ラジオ民放の自主制作番組の比率は50%位らしいが、ヒッツFMはどのくらい自主制作番組をもっているのか？

会社側：ヒッツFMの自主制作番組は8割から9割位ある。

大萱委員長：他のラジオ局は番組を買っているようだが…。

会社側：番組を買っている局が多いと思う。

大萱委員長： ヒッツFMはお金がないから買えないのか？そもそも、買う必要がないけれど。

会社側： 番組を買った方が安く済むこともある。人件費の方が高いかもしれない

大萱委員長： 8割から9割も自主制作番組を維持していることは素晴らしいと思う。大変だと思うが頑張ってもらいたい。
他に意見が無ければ、これで閉会する。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

4月25日 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 平成29年6月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）